

くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 〒501-61 岐阜県羽島郡川島町 Phone : 058689-2101



企画展

病と祈りの歳時記

——さまざまな健康への願い——

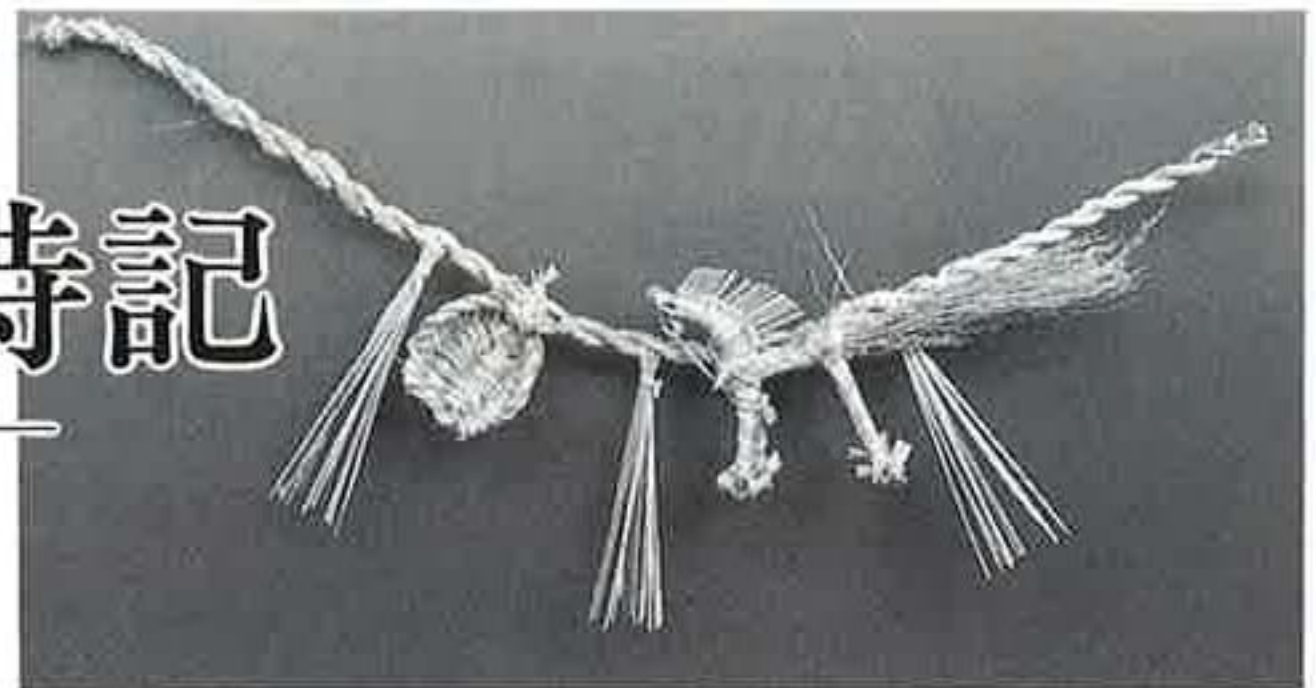
1994年5月1日～11月27日

昔の人々は季節のかわりめ毎に、健康長寿を祈願する日をきめていました。京都の祇園祭が疫病退散を祈って始まったように、お祭りに疫病退散にちなんだものも多くあります。また、厄病よけのまじないもたくさんあります。

疱瘡(天然痘)、麻疹(はしか)などは多くの人々の命を奪った代表的疫病です。医療の乏しかった昔は、疫病などで多くの子供たちが亡くなりました。季節、年の節目に長寿を祈り、子供の成長を感謝する行事が行われました。

そして、それにまつわる郷土玩具やお守り、錦絵などが多くあります。目に見えない病と戦い、その治癒を念じて、人々はひたすら祈り続けました。

今回の企画展で、人々のくらしの中で生まれ、伝えられてきたものを今一度たどり、その源をみつめなおす機会となりました。幸いです。



▲ハリキリ 14×45 (cm)
新潟県佐渡郡羽茂町

絞張馬とわら草履を外に向けて村の入口につるします。疫病神が村の外に踏み出すように、今もなお残る小正月の行事です。



▲鴻巣の赤物 埼玉県鴻巣市

赤色は古くから疱瘡神が好む、あるいは忌み嫌う色と信じられていました。それ故『赤物』は疱瘡よけのまじない玩具とされました。

病をさけるために
さまざまな
まじない
呪い



▲しょうじょうめん
鳥取市

16×13×4 (cm)

酒に酔った顔の面。麒麟獅子舞を導く際に被る張り子面です。



▲麒麟獅子

鳥取市

23×10×12 (cm)

中国の想像動物麒麟に依っているためこの名前があります。因幡地方の神社で行われる獅子舞に被る獅子頭の張り子。獅子舞は悪疫の入らぬようにする、清めの舞いです。

社で行われる獅子舞に被る獅子頭の張り子。獅子舞は悪疫の入らぬようにする、清めの舞いです。



▲しょうじょう
滋賀県大津市

疱瘡よけのまじないです。棧俵を据え、狸々人形を置き供え物をします。疱瘡が狸々に移ったものとして小川などに流し、厄払いをします。

健やかさを おとめて

安産・子供の成長・無病息災・病気平癒を祈ったお守り・郷土玩具。社寺から魔除け、厄除け、安産祈願として授与されるもの、子供の成長を祈って贈られるもの、祭りや行事にちなむものなど、さまざまなお守りや郷土玩具があります。

▼犬張子

東京都台東区 12×21×32 / 7×14×16(cm)

犬は常に安産し、子の成長がよいということにあやかっただもの。子供の幸せと成長を祈り宮参りの際に贈られるところもあります。



▼おころりん

愛知県豊川市 6×6×8(cm)

乳児がおくるみにくるまった形です。子供が生まれると神棚にまつり、子供の無事息災を祈りました。日々、無病息災で「おころりん」と起き上がり七転八起して人生を全うする意味もあります。



▼奉公さん

香川県高松市 10×11×22(cm)

お姫さんの病気をうつしうけ身代わりになったといわれます。幼児の災厄除け人形。

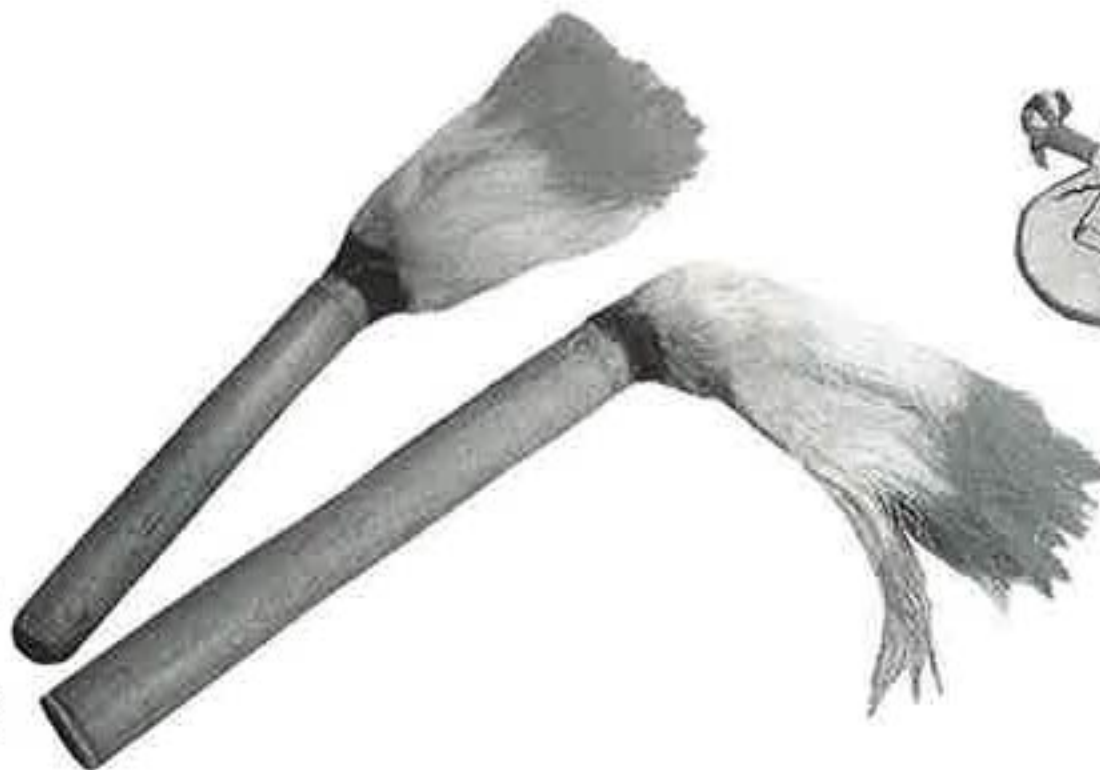


▼おかんじゃけ

静岡県清水市

78×6 / 57×5(cm)

夏まけを防ぎ福を授かるといわれるおもちゃです。「おかん」は髪、「じゃけ」は竹のことです。



▼種貸し人形

大阪府堺市 3×4.5×5(cm)

子授けのまじない人形。農作物のよい種子を授けられるという信仰が人間の子宝の種を宿す事に転じたもの。



▼塩山の鳩笛

山梨県甲府市 6×9×5(cm)

笛を吹く時、土笛を噛むので子供のカンの虫が切れるまじないです。



▼守り鶏

愛知県名古屋市

3×6×6 / 3×5×7(cm)

子供の無事成長、願望、病気などの厄除けとなります。



▼木の葉猿

熊本県玉東町

10×5×6(cm)

悪病、災難を逃れ、子孫繁栄の守り神とされます。江戸時代より愛玩されています。



▼宝扇

奈良市

41×17(cm)

唐招提寺のうちわまき会でくばられます。これをもつと安産し、扇げば病気平癒、子供は生涯健康になるとされます。



▼祝儀棒 (ぼんでんこ)

秋田県横手市 42×8×8(cm)

正月行事に子孫繁栄、無病息災を祈って、子供たちがこの棒をもって歩きます。



▼西尾の狗

愛知県西尾市 2.5×5×4.5(cm)

安産と子供の健やかな成長を祈って産婦は狗を二つ求めてその一つを氏神様に供え、もう一つは床の間に飾っておきます。

錦 絵

麻疹などの疫病に関する錦絵には病よけのまじないや養生法などがしるされています。

麻疹 軽くする法



多羅樹葉
一節分の夜、門にさしたる多羅樹葉を
三十三軒にて一枚ツゞもらひあつめ
せんして、はしかせぬ小兒に吞すべし かるくして
わさわひなし

多羅樹葉一枚とり

麦殿は

生れたまゝに

はしかして かせたる

のちハ 我ミなりけり

という哥をかき はしかせぬ

小どもの名と年をかきて

川に流すへしかならずかる

く余病もいてす

毒だて

魚るい 鳥るい 竹の子 きの子るい

あぶらげ すのもの めんるい くだもの

なすび 玉子 そらまめ なたまめ

梅つけ 粕つけ 五十日忌むべし

慎されバ よどくいで、難症となる 房事ハ殊にいむへし

馬喰四 木屋板
房種戯画

医薬二れ二れ抄(四)

疱瘡は、天然痘や痘瘡ともいわれ、多くの日本人が苦しめられた病気でした。この病気は4～5世紀、仏教が伝わる頃、人の移動と共に中国に伝わり、日本にも渡来者(帰化人)によって伝えられました。

それから二百年たった頃、天平7

～9年(735～737)には、疱瘡の大流行が起こり、多数の死者がただけでなく、光明皇后の兄の藤原四兄弟や政府の高官までがこの病気で死亡、民心の不安・政情の動揺をもたらす原因になりました。こうした政情危機をのりこえるため、仏教をおこし、諸国に国分寺をたて、その中心に東大寺を造り、大仏鑄造となっていたのです。

平安京への遷都の後も、春・夏の日照り、秋の台風・洪水で飢饉がおこり、再び疱瘡が流行しました。貞観11年(869)清和天皇は全国に布告して、災いをもたらす

神よりもさらに力の強い牛頭天王に悪病退散の祈願をしました。剣(つるぎ)や鉢(ほこ)をたてて盛大な祭りが挙行されました。これが祇園祭りとして伝えられています。疱瘡はその後も流行を繰り返しています。そのうちに病人の隔離が流行を防ぐことや軽く疱瘡

疱瘡に見る健康祈願の大きさ

にかかると二度とかからないことを知り予防に利用するようになってきました。

嘉永2年(1849)ジェンナーの発明した種痘の牛痘苗が日本に導入され、各地の蘭方医の努力によって急速に普及しました。明治政府は種痘の拡大につとめ、明治6年には、すべてのひとに種痘を受ける事を義務づけました。防疫体制が整うにつれ、疱瘡は激減し、終戦後の昭和21年外国からの引揚者の影響で患者1万8千人、死者3千人という大流行を最後に、昭和29年死者1人、昭和30年患者1人

となり、1980年WHOは地球上から疱瘡が根絶されたことを宣言しています。

考えてみれば、疱瘡は、①人間だけの疾患であり、②ウイルスが単一で、③再感染による発病がなく、④患者隔離で伝染を絶つ事ができ、⑤有効なワクチンができた、

など科学的に見れば扱いやすい病気でありました。こ

のようなことが解らない昔、流行の時々に遭遇した人々にとっては、恐ろしい病気で天の祟りとも思えたのでしょう。天の助けを借りる祈りや別の神様に悪病神を追い払ってもらう祈り、自分自身の心を奮い立たせる祈りなどがあったことでしょう。

健康への祈願こそ、疱瘡根絶への原動力であり、東大寺の大仏や祇園祭りに祈願の大きさを知ることができることと思います。

今注目のエイズは、何年後に根絶されるのでしょうか。

くすり博物館館長 岩井鑛治郎

当博物館に多くの資料をご寄贈いただいている田辺源三郎先生は、滋賀県木之本町「本陣薬局」で薬剤師免状第1号（写真）をみつけられて、それを確認することを楽しみにされていました。しかし、その望みを果たす前に一昨年暮れ亡くされました。

先生の楽しみにされていた確認とは、「薬剤師の資格は、免状の文言にもあるとおり法律第10号『薬品営業並びに薬品取扱規則』できめられ、



明治23年3月より施行されていました。この免状の授与日明治26年5月9日は、壱号にしては離れ過ぎているので、裏書きを見れば、その事情がわかるのではないか？」ということでした。その後当博物館で調査したところ、この免状は23年5月9日授与された後26年改名で書換え授与されたものであることが解りました。（'94年3月29日第114年回日本薬学会薬史部会で岩井発表）

とびっくす

◆『今月の薬草』説明会

昨年6月から12月まで季節の薬草を解説する講座が始まりました。今年4月から12月までの開講を予定しています。毎月第1日曜日には薬草園主任の白井英夫、第2日曜日には薬草園アドバイザーの逸見誠三郎が10時から11時まで解説しています。ご希望の方は当日10時までに第一会議室までお集りください。（事前の申し込みの必要はありません。）

◆『薬用植物友の会』会員募集

当館附属薬用植物園では薬草の栽培から利用まで、実地作業をとおして習得をするとともに、会員相互の親睦をはかることを目的とする友の会を4月よりスタートします。

今年カミツレ（英語名カモミール）、エビスグサ（ハブ茶）、トウキから取り組みます。会員は毎月第2土曜日に集合し、栽培管理、収穫調整、利用などの研修を実施します。＜参加資格＞薬草に興味があり、軽い農作業に従事でき、毎月第2土曜日に継続して参加できる方。

＜研修日＞4～12月の第2土曜日（9～12時）

＜定員＞30名

＜会費＞1000円（94年度分）

＜申込＞往復ハガキに「友の会薬用植物参加希望」とし、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、くすり博物館まで。

◆植物画講座作品展を行いました

1月25日から3月26日までの期間、薬用植物の特徴をとらえる点描画を



中心に受講生の作品40点を展示しました。植物画講座も今年で7年目に入り数多くの優秀作品が展示され好評でした。

◆企画展解説図録を作りました

今回の企画展では展示にあわせて解説図録を作成しました。展示資料を写真と解説で紹介したものです。希望者の方には有料で販売しています。ご希望の方はお問い合わせください。

◆93年度くすり博物館5大ニュース

- ①故杉本勲様ご遺族より蔵書約2千冊をご寄贈いただきました。
- ②企画展『病む目とめぐすり』5月1日～11月28日開催。
- ③8月11日NHKTV「おはよう日本」で全国に生中継で紹介。
- ④国際薬学会議FIP93で“Medicine and Japanese”上映。
- ⑤11月度、来館者が6千人を上回り大変な賑わいでした。

資料・図書のご寄託・ご寄贈者 ご芳名

稲垣 克彦	大久保 浩
大阪医薬品協会	結核予防会
小松 良夫	坂口 正義
杉原 正泰	泉 昌宏
飛見 立郎	水野 眞孝
村瀬 一郎	吉井千代田
四十万小平次	

（敬称略）

ありがとうございました

館長 岩井誠治郎 学芸員 森裕美（編集担当）・水野加代 学芸員/司書 野尻佳与子・伊藤恭子 庶務 森田麻起子
 説明員 高橋千寿・小島敦子 薬用植物園 白井英夫・栗本省三・松尾三雄 顧問 青木允夫・逸見誠三郎
 内藤記念くすり博物館 9:00～16:00開館 月曜・年末年始（12/28～1/8）休館